

「イスラエル建国史」

3 ハスカラ (ユダヤ人啓蒙運動) の進展 ユダヤ・中東研究家、滝川義人

ドイツに生まれたハスカラ (ユダヤ人啓蒙運動) は、オーストリア帝国を経由して1820年代にガリシア地方 (中欧東部)、そして1840年代にロシアのユダヤ人社会に波及した。

ハスカラ時代は1770年代に始まり1880年代で終わる。それがもたらした世俗教育は、ユダヤ人が名目的にせよ法律上平等の権利を認められた社会背景もあって、職業構造に影響し、社会的進出が可能になってきた。人材輩出の時が来たのである。

イーディッシュ語の終焉

ハスカラは、イーディッシュ語の使用に終止符をうち、ヘブライ語を復活させ、居住地の (ヨーロッパ) 言語の使用にはずみをつけた。

一般のユダヤ人が日常語として使っていたイーディッシュ語は、「文法上の規則性に乏しい」とか「さまざまな言語の奇妙な混合」などと外部から批判され、ドイツでは公文書での使用を禁じられていた。例外はロシアである。当初マスキリム (啓蒙されたユダヤ人たち) はイーディッシュ語の継続使用に反対であったが、住民の愛着心は強く、後に世俗的イーディッシュ文化を開花させた。そのイーディッシュ文化は、ユダヤ人の大量移住でアメリカへ移っていく。1978年度のノーベル文学賞をうけたイサク・バシェビス・シンガー (1908-91) は、イーディッシュ文学の分野での受賞であった。しかし、その言語は今や消滅の危機にある。東ヨーロッパとロシアのユダヤ人社会そのものが、ホロコーストと移住のためほぼ消滅し、アメリカのユダヤ人社会でも、日常語としての使用が激減したためである。



イサク・シンガー

一方ヘブライ語は、聖書やタルムードの注解、宗教法の解説に昔から使用され、戒律上の不明点に関して高名なラビの判断を求める質疑と回答 (レスポンザ) は、ヘブライ語でおこなわれてきた。説話や詩歌もヘブライ語で草されていたので、この言語が死語になっていたわけではない。民族の宗教文化あるいは倫理観が一杯詰まっており、彼らはその教養をベースとしてヨーロッパ文化を咀嚼した。しかし、ヘブライ語自体の本格的出番はまだであった。

旧ポーランド王国領の ユダヤ人社会



ユダヤ機関の調べによると、ハスカラが生まれて間もない1800年時点で、世界のユダヤ人口は375万。さまざまな地域に離散した状態にあったが、主な居住地域はヨーロッパで275万、中東および西アジアに30万、北アフリカ25万であった。当時アメリカへの本格的移住は始まっておらず、当地のユダヤ人口は数万。パレスチナは約7000人であった。

この275万の過半数が、ペイル (強制隔離地域) に詰めこまれていた。その地域は大まかにいえば旧ポーランド王国領で、20世紀のユダヤ人社会を動かす原動力は、ここで生まれた。

十字軍時代の前から存在するポーランドのユダヤ人社会は、比較的恵まれた環境下にあつて、製造業にも進出し経済的に豊かであり、16世紀に宗教上のユダヤ教学の中心地として発展した。



ポーランドのユダヤ人

1569年、ポーランドはリトアニアと統合し、ついでウクライナを併合した。かくしてポーランドのユダヤ人社会は、16世紀後半にユダヤ人が最も多く居住する世界一の地域になった。1551年8月には、主席ラビを選ぶ権利を認められ、大幅な自治生活が送れるようになる。ポーランド、リトアニア、ウクライナを含むユダヤ人社会の四大地域会議 (Va'ad Arba Artsot) が年1度ルブリンで開催され、ユダヤ議会として機能し自治上の問題を話し合った。

しかし、そのポーランドは、ユダヤ人社会にとって天国であったわけではない。1648-9年、反乱をおこしたコサック隊長フミエルニキは、農奴とロシア正教徒のコサックを扇動してユダヤ人を襲い、ドニエプル川東岸流域のユダヤ人社会に壊滅的打撃をあたえた。

さらに3度に及ぶ分割 (1772、1793、1795) でポーランドそのものが消滅し、ユダヤ人社会の大半は、ロシアにとりこまれてしまった。(ナポレオン・ボナパルトがつくったワルシャワ公国も、1815年のウィーン会議で、ロシアとプロイセンに分割され

た)。ユダヤ人にとって厳しい苦難の始まりである。

ロシアのポグロムとユダヤ人流出

1791年、ロシアの女帝エカテリナ2世は、併合地を含むロシアのユダヤ人を、ペイル（強制隔離地）に押しこめた。地域は旧ポーランド王国とほぼ同じで、現在のポーランド、ラトビア、リトアニア、ウクライナ、ベラルーシが含まれる。帝政ロシア領の4%を占める。



エカテリナ2世

領域は時の偽政者によって恣意（しい）的に変えられたが、ここに90%以上のユダヤ人が集められ、特別の許可を得た者以外は、ペイルの外には住めなかった（1891年、モスクワから2万人、サンクトペテルブルクから2000人をペイル内へ追放するなど、不法滞在者、には苛烈な処置がとられた。檻の中に閉じこめ、その中でユダヤ人を差別し迫害したのである）。

1881年3月13日、ロシアの皇帝アレクサンドルス2世が、革命組織「人民の意志党」（Narodnaya Volya）に暗殺された。反ユダヤ的空氣の濃いロシアでは、この暗殺をユダヤ人のせいにするのは容易であった。政府当局がユダヤ人懲罰を許可したとのデマが流され、これが反ユダヤ暴動に火をつけた。4月末ウクライナ南部のヘルソン、中東部のエカテリノスラフ（ドニエプロペトロフスク）、東部のポルタバ、チェルニゴフ、そしてキエフに飛び火した。特にキエフでは、軍警が傍観するなかで暴徒があばれまわった。当時キエフのユダ

ヤ人口は約1万4000（総人口の12%）。そのうち762家族が全滅した。辛うじて生き残った人々も、略奪、放火、暴行で恐怖にかられ居所を離れた。一連のポグロムは、同化したユダヤ人特にロシアのマスキリムにショックを与えた。普通のロシア人になろうとしても、周囲がそれを拒否しているのである。

支援組織アリアンスの活躍

支援組織アリアンスのパリ本部に一報が届いたのは、1881年5月初旬である。この情報は、オーストリアのユダヤ人救援組織イスラエリティシュ・アリアンツが送ったもので、ウクライナとの国境に近いブロード

ウイに難民が流入しているという。ブロードウイに派遣されたのは、アリアンス創立者のひとりシャルル・ネッター（1826-82）、ストラスブール出身の貿易商であった。ネッターは同僚ひとりを伴ってパリを出発した。医療や給食などの手配に数日もあれば十分と考えていたが、現地に到着して驚いた。老人、子供を含め1万人を超える避難民が、行くあてもなく路頭に迷っていた。ユダヤ人家庭やシナゴグでは収容しきれなくなって、多くの難民が路上生



シャルル・ネッター

活を送っていた。しかも、毎日数百人の単位でブロードウイに押し寄せてくる。

ブロードウイは、ウクライナ北西部を流れるスティル川流域に位置する小都市で、ユダヤ人は16世紀末から居住し、地の利を得ているうえに自由市であったから交易に従事、町と共に栄えた。当時ブロード

ウイの人口は2万強、その80%はユダヤ人であった。列強の勢力圏が変わる度にブロードウイは、所属国が変わった。当初はポーランド領、難民流入時はオーストリア・ハンガリー帝国領。現在ウクライナ領であるが、それまで所属国が5度も変わった。

救援活動をおこなったアリアンスは、正式名称をアリアンス・イスラエリト・ユニベルセル（AIU）と称し、人道および教育支援を目的に、20年前に創立されたばかりであったが、ロシアのユダヤ人救援はこれで2度目である。1度目は1869年、ロシアのユダヤ人社会がコレラと飢餓のダブルパンチで苦しんだ時、飢餓民のアメリカ移住を助け、ケーニヒスベルク（カリーニングラード）に児童施設を設けて、孤児を収容している。

一時しのぎの救援では、この難民問題は解決できない。しかし、ヨーロッパに難



アレクサンドルス2世



アレクサンドルス2世暗殺事件



民を受け入れてくれる国はなく、唯一の希望はアメリカ移住であった。ネッターから報告を受けたアリアンスは、オーストリアのアリアンス、ドイツの支援協議会（後にドイツ・ユダヤ人救援会HDJ）、そしてイギリスのマンションハウス・ファンドと対策を協議して、役割分担を決めた。プロドゥイからドイツ沿岸の港湾都市まではドイツとオーストリアの団体、ドイツからイギリスまではマンションハウス・ファンドがそれぞれ難民輸送を担当し、プロドゥイでの生活と英米間輸送をアリアンスが受け持った。

ヨーロッパにユダヤ人啓蒙運動（ハスカラ）が始まって100年。ユダヤ人社会は、多数派社会に適応しつつ、同胞を支援する能力を身につけていた。アメリカのユダヤ人社会は、移民救援組織のヘブライ移民救援協会（HEAS）で対応した。この協会は1902年に改組され、ヘブライ移民収容支援協会（HIAS）となった。

プロドゥイに押し寄せた難民は、この年だけで2万人に達した（夏にオーストリア当局がこの中継センターの閉鎖を命じた）。アリアンスを中心とする救援組織の手で、1882年末までに全員が海外へ移住した。南米に向かった人もいるが、大半はアメリカに渡った。しかし、東プロイセン経由でドイツへ逃れた難民は、ハンブルクやアムステルダムを目指す者もいたが、約1万人は行くあてもなく無国籍者として滞留した。1885年3月26日、ドイツ当局

はこの無国籍者1万をもと来た所へ追い返した。

ペイルから流出してアメリカへ移住したユダヤ人は、1880年代末までに16万1000人、90年代は30万に達した。特に1891-2年の2年間で10万8000人がアメリカに殺到している。さらに1900年から1904年の間に150万が流入したので、結局第一次世界大戦の勃発までのわずか32年間で、実に200万のユダヤ人がロシア・ポーランドから流出した。人口がまさに半減したのである。

シオニズム運動の先駆者

1868年、ネッターはアリアンスを代表して、パレスチナへ行った。目的は農学校の開設である。トルコ当局の許可を得てテルアビブの南東に600エーカーの土地を購入、1870年に開校した。ミクベ・イスラエル（イスラエルの希望、エレミア書14章8、同17章13）という校名である。農業技

術者を養成すると共に開拓地を準備し、ユダヤ人を収容する構想であったが、資金難でネッターは将来を悲観していた。しかし、ロスチャイルド（バロン・エドモン・ド）が経営に参加することになり、ネッターはプロドゥイの仕事が一段落すると、勇躍パレスチナへ戻った。彼には「ロシア系ユダヤ人移民のためのパリ委員会」議長という肩書がついていた。

1882年7月6日、弱冠21歳の青年イスラエル・ベルキン（1861-1929）に率いられた一団14名がロシアから到着した。名前をビルグループといった。新しい社会の建設の意気に燃えた青年たちであった。

ネッターは病に倒れ、10月3日ミクベ・イスラエルの事業なかばで死亡した。ネッターはシオニズム運動の先駆者といわれるが、もっと組織的な先駆的運動は、ボゲロムに苦しむロシア・ポーランドのユダヤ人社会から生まれた。ビルグループがそのさきがけである。



当時のミクベ・イスラエルの学生たち